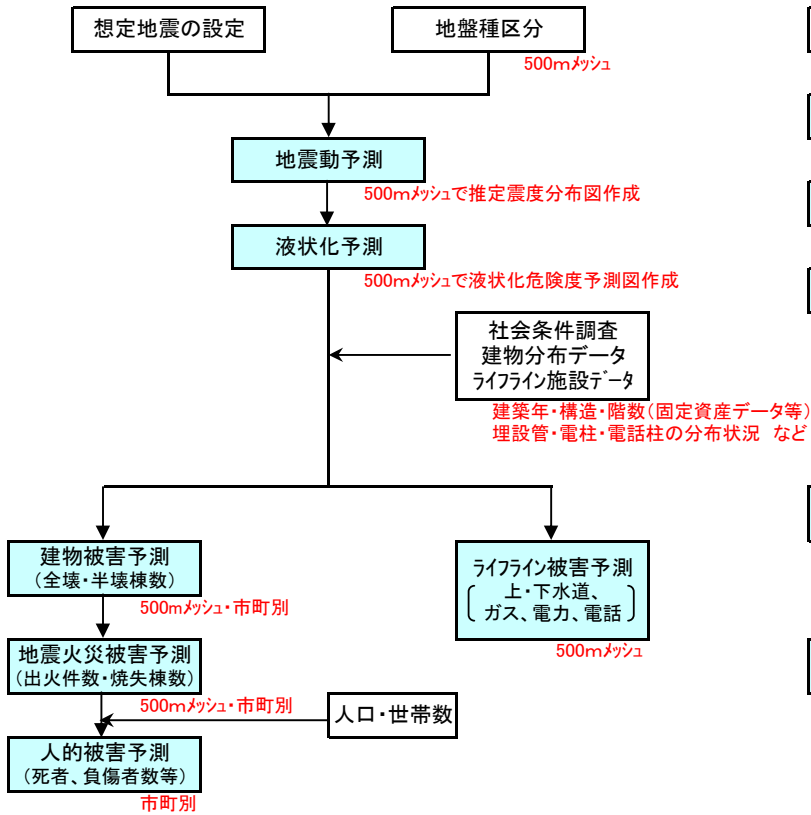
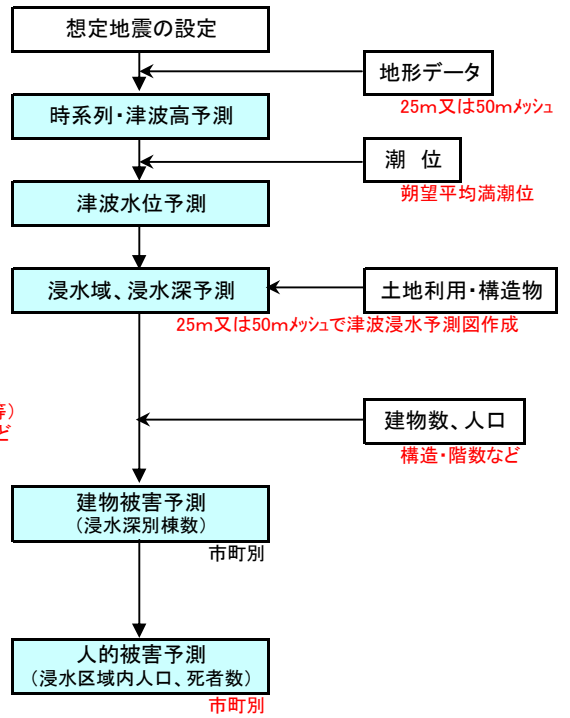


地震被害想定調査の流れ



津波被害想定調査の流れ



【地震被害想定調査】

実施時期	平成7年度～平成8年度		
地震タイプ	海溝型地震	直下型地震	直下型地震
震源域	南海トラフ (南海地震)	中央構造線 (三野・池田断層)	長尾断層
地震規模	M8.4	M7.7	M7.1
推定震度分布	5弱～6強	5弱～7	5弱～7
人的被害	死者	188人	6,763人
	負傷者	3,324人	36,969人
建物被害	全壊	4,567棟	61,671棟
	半壊	17,414棟	179,871棟
発生確率※ (30年以内)	60%程度	ほぼ0～0.3%	ほぼ0%
備考	安政南海地震と同規模。平成15年度に中央防災会議が発表した東南海・南海地震の被害予測との総合評価を実施。県の想定の方が被害量が大きめ。		

【津波被害想定調査】

実施時期	平成15年度～平成16年度
地震タイプ	海溝型地震
震源域	南海トラフ(東南海・南海2連動) ※中央防災会議提供の波源モデルを使用
地震規模	M8.6
推定震度分布	ほとんど5強、一部6弱
最大津波高	県内沿岸全域 約0.5m～1.9m
潮位	H.W.L. T.P.+約1.0～2.1m
最大津波水位	県内沿岸全域 T.P.+約1.7～3.1m
浸水区域人口 建物浸水被害	約52km <sup>2</sup> 。約74,000人。死者は0。 床上26,498棟、床下20,410棟
発生確率※ (30年以内)	60%程度(南海地震)
備考	

平成17年3月に『香川県南海地震被害想定調査の概要』としてとりまとめ

※発生確率は、文部科学省地震調査委員会によるもので、H23.1.1現在のものです。